

# 本の日&サン・ジョルディの日デジタルアーカイブの構想 —祭の「接続」の解明に向けて—

菊池信彦<sup>†1</sup>

**概要:** 本研究の目的は、スペインのカスティーリャ地方における「本の日」と、カタルーニャ地方における「サン・ジョルディの日」の祭という、2つの読書・出版文化ナショナリズムを対象に、第二共和政期（1931-1936）における両祭典の「接続」を検証することにある。本報告では、この解明に向けて構築するデジタルアーカイブ“Sant Jordi’s Day & Book Day Digital Archive”の構想について論じる。

**キーワード:** 本の日, サン・ジョルディの日, デジタルアーカイブ, デジタルヒストリー, パブリックヒストリー<sup>[\*\*]</sup>

## Concept about the Book Day & Sant Jordi’s Day Digital Archive —Toward trace a “connection” between the festivals—

NOBUHIKO KIKUCHI<sup>†1</sup>

**Abstract:** The aim of this project is to trace a “connection” of two cultural nationalism movements during the Second Republic (1931-1936) and after in Spain; they are “Book Day” in Castilla and “Sant Jordi’s Day” in Catalonia. In this paper, we will discuss about a plan of “Sant Jordi’s Day & Book Day Digital Archive” to clarify this connection from the perspective of digital history.

**Keywords:** Book Day, Sant Jordi’s Day, Digital Archive, Digital History, Public History

### 1. はじめに

#### 1.1 本の日とサン・ジョルディの日

近年、スペインのカタルーニャ州の州都バルセロナでは、独立を求めるデモが、同地の民族的な記念日である9月11日[1]を中心に活発に行われている。この背景として、カタルーニャがマドリードを中心とするカスティーリャ地方とは異なる言語と歴史、そして文化を有する「国」としての意識を、近現代を通じて中央政府に幾度も弾圧されながらも、高く保ち続けてきたからだとする言説がある。その是非はともかく、この言説に如実に表れているように、カタルーニャとカスティーリャという両地方は、従来、対立的視点から描かれがちである。しかしながら、それぞれのナショナリズムの観点から、同じ日を同じように祝う祭日も存在している。それが本研究で対象とする2つの祭日——本の日とサン・ジョルディの日——である。

スペインにおける本を祝う祭の歴史は、1926年に始まり、制定当初はセルバンテスの誕生日と考えられていた10月7日に設定されていた[2]。ところが、セルバンテスの誕生日に疑義が出されるなどしたことから、1930年の勅令により、翌1931年からはセルバンテスの死去日にあたる4月23日に祝われるようになった[3]。本の日は、成立当初は「スペイン語の本の日」(ここで言うスペイン語とはカスティーリャ語を指す)という名称で、セルバンテスに代表されるス

ペイン文学の世界発信を意図した文化ナショナリズム運動を体現するものであった[4]。

一方、4月23日は、1931年以前から、カタルーニャではサン・ジョルディの日として知られている。サン・ジョルディとは、3世紀トルコのカップドキアの人で、恐ろしい竜から美しい王女を救い出した伝説の騎士である(図1)。



図1 竜を殺すサン・ジョルディ[5]

<sup>†1</sup> 関西大学アジア・オープン・リサーチセンター  
Kansai University Open Research Center for Asian Studies

彼は 1452 年にカタルーニャの守護聖人となり、殉教した 4 月 23 日は、カタルーニャでは 16 世紀ごろからバラを贈り合う日となった。4 月 23 日が本の日となって以降は、バルセロナでは市街に本とバラを売る屋台が立ち並び、愛する者同士が赤いバラと本を贈り合う日となった。サン・ジョルディの日は、9 月 11 日とは異なる、カタルーニャの文化ナショナリズムが表明される日として知られている。

## 1.2 本研究の問いと先行研究の課題

しかし、なぜサン・ジョルディの日に本を贈っているのだろうか。

もちろん、すでに述べたように 2 つの祭日が同じ 4 月 23 日に設定されたからである。しかし、冒頭で述べた両地方の対立的な歴史的経緯と本の日文化ナショナリズムの性質を考慮すると、祭日が重なったことは必要条件ではあるが、対立する相手方の祭の要素を摂取したことを説明する十分な理由とはいえない。

この問題について、カタルーニャにおけるサン・ジョルディの歴史を研究する Soler i Amigo (2000) によると、「本の日はカタルーニャにすぐに根付き、カタルーニャ語の出版と商業化の進展に寄与するものであった[6]」とし、サン・ジョルディの日との「接続」——すなわち、サン・ジョルディの日が祭のなかで本という要素を取り込んだこと——については、注意が払われていない。一方で、本の日研究 (Cendan Pazos. 1989 等) では、4 月 23 日ジャンラリタット (カタルーニャ自治政府) 前でのバラの市場と市街での本の販売という 2 つの祭りの表現が、2 つの祭りが結びついたと指摘されている[7]。つまりは、祭典の空間的理解から 2 つの「接続」が説明されているのである。しかし、その空間的な位置関係やどのような本が売られていたのかについては、まとまった史料がないからか深い検証はなされていない。また、出版史・読書史 (Martínez Rus 等[8]) をひも解いてみても、出版・書店界の本の日に関する議論に終始し、サン・ジョルディの日自体は積極的には取り上げられてはいないのが現状である。

まとめると、二つの祭りが「接続」したのは、本の日が 4 月 23 日に変更されて間もない、スペイン第二共和政期 (1931-1936 年) だろうというのが共通理解ではある。しかし、先行研究での「接続」の説明は、依拠史料の数が数例しかなく説得力に乏しい。また、どのような本がどこで売られ、それがサン・ジョルディの日のバラの販売とどのように絡み合ったのかも不透明である。

そこで、本研究では、本の日とサン・ジョルディの日の「接続」について、それが起こったとされる第二共和政期以降を検証する。その検証を通じて、カタルーニャとカスティーリャのそれぞれの文化ナショナリズムを、既存の対立図式とは異なる「接続的な」観点から検討することで、既存図式の再検討を迫ることを目標としたい。

## 2. 方法としてのデジタルアーカイブ

### 2.1 方法をめぐる省察

本章では、祭の「接続」の解明に向けた方法について検討を行う。

先行研究の課題は、「接続」を説明する史料が乏しいこと、空間的理解から説明を試みるもののそれが不十分であったことにある。したがって、この 2 つの課題に対し必要となるのは、多数の史料から祭の描かれ方を探ることと、本の日とサン・ジョルディの日という 2 つの祭りの空間を地図上で検証することであろう。そのために、本研究では、デジタルアーカイブという方法を採用することとした。その理由は上の 2 つの課題に対応し、以下の通りとなる。

まず、一つ目の課題に関し、巨視的な観点から史料解釈を行うためには、分析にかけるテキストデータセットの作成が必要となる。そのデータを格納し、利用可能とするために、デジタルアーカイブシステムが求められる。

もう一つの課題は、4 月 23 日にどのような本がどこで売られていたのか、バラの屋台はどこにあったのか、という問題である。「どのような本が」については、第二共和政当時、4 月 23 日の販売図書目録は公式では作成されなかったようで、少なくとも筆者は管見の限りそのような史料は見いだせていない。また、本やバラの屋台を示した地図等も現状では確認できていない。そのため、それらの情報は当時の新聞記事や広告、書店・出版組合会報等から析出する必要がある。そして、しかるのちに、地図上へ配置を行うこととなるが、そのような情報のビジュアル化はデジタルアーカイブの機能が有効である。

以上のように、大量のデータの解析やマッピングというデジタルヒストリーとしての分析を行うためには、デジタルアーカイブを構築することが研究環境を整えるうえで有効である。

### 2.2 デジタルアーカイブを公開する意義

だが、デジタルアーカイブとして公開する必要があるだろうか。データを収集し、そしてその分析結果を論文として発表すれば、研究活動としては成立する。歴史学において論文による成果発表の前に、収集した史料を公開することは、そのデジタルアーカイブの運営それ自体を目的とした研究でなければ、むしろまれかもしれない。

しかし、筆者はこれを公開する積極的な意義が、デジタルパブリックヒストリーとしてあると考えている[9]。すなわち、機関ごとに公開されるデジタル化史料やいまだ公開されていない非デジタル化史料を、キュレーションによって同一テーマのもとで閲覧できる機会を提供するということ、そしてそれを通じて、現在吹き荒れている「出版ナショナリズム」ともいえるべき状況を歴史的に相対化して見つめなおすきっかけとなりうるからである。もちろん、現状

では史料公開を行っているにすぎない。成果が出たところで、それに基づく歴史叙述をデジタルアーカイブ上で行うことが今後の課題である。

### 3. サン・ジョルディの日&本の日デジタルアーカイブの構想

前章までの考察を踏まえ、筆者は、「サン・ジョルディの日&本の日デジタルアーカイブ」(Sant Jordi's Day & Book Day Digital Archive)の構築を進めている(図2)。

まず、デジタルアーカイブの基幹システムには、オープンソースソフトウェアの Omeka Classic を採用した。Omeka Classic は、ジョージ・メイソン大学ロイ・ローゼンヴァイク歴史とニューメディアセンターが開発した、図書館等の文化機関および研究者向けデジタルコレクション作成用ソフトである[10]。サーバは学外のレンタルサーバを利用している。



図2 Sant Jordi's Day & Book Day Digital Archive[11]

次に、デジタルアーカイブの登録対象となるコンテンツは、史料種別の観点からまとめると、以下のようになる。

- ・ 第二共和政期に刊行された新聞史料
- ・ 本の日開催母体である図書商業組合 (Cámara Oficial del Libro) の史料 (会議史料, 図書目録, 月刊誌等)
- ・ サン・ジョルディの祭を開催したジャナラリタット関係史料
- ・ 上記以外の参画団体等の史料

現段階では、新聞史料と図書商業組合の史料を中心に調査を行っている段階である。

そして、コンテンツの入手元から分けると次の3つに大別される。

- ① スペインのデジタルアーカイブですでに公開済みのもの
- ② 史料所蔵館から複写や現地撮影で入手したもの
- ③ 古書店等から購入した史料

①については、ライセンス表示に注意すればおおむねデジタルアーカイブ上での公開が可能である。②については、現状ではまだ入手もできていないが、今後増えることが予想される。もちろんそれらをデジタルアーカイブで公開するには、所蔵機関との調整あるいは許諾が必要となるだろう。③については、著作者の権利状況を確認のうえ、著作権保護期間満了のものは登録公開することになる。

登録に際し、メタデータについてはすでに史料所蔵機関が作成したものを取り入れるが、今後現地での史料調査を予定しており、未整理史料の場合は筆者自身の登録もありうる。

最後に、2.1 で述べた課題解決のためのデータ作成については、本の日やサン・ジョルディの日に関する史料を発見した際に、OCRソフト (ABBYY FineReader 14) を利用してテキストデータを作成している。巨視的な分析には、このテキストデータを利用することとなるだろう。また、地図上へのマッピングについては、Omeka Classic のプラグイン Neatline 等を利用する想定である。しかし、すでに述べたように、現段階では史料入手とその登録を進めている段階であるため、分析手法の詳細は、今後の課題とせざるを得ない。

### 4. おわりに

本稿では、スペインにおける本の日とサン・ジョルディの日の「接続」がはらむ問題とその研究意義を指摘した。ついで、その問題解決のためにデジタルアーカイブが方法的に有効であることを示した後、筆者が構築中の「本の日&サン・ジョルディの日デジタルアーカイブ」について論じた。最後に、今後の課題として、そこで収集したデータの分析や地図へのマッピングについて述べている。

日本の西洋史学においては、デジタルアーカイブを研究上利用することは一般的である一方で[12]、デジタルアーカイブを自身で構築することは、いまだほとんど行われていない。また、そこで収集したデータの分析も未開拓といってよい状況である。本研究が目指すのは、デジタルパブリックヒストリーとしての活動を含め、そのような状況にある西洋史分野へのデジタルヒストリーの導入である。その具体的な実現には、史料収集と整理とともに、今後の研究の進捗に大いにかかっている。その報告は他日を期すこ

ととしたい。

## 参考文献

- [1] 田澤耕. カタルーニャを知る事典. 平凡社新書. 2013. p.224.
- [2] Gaceta de Madrid. 1926-02-09, núm. 409, pp.707-708.  
<https://www.boe.es/datos/pdfs/BOE//1926/040/A00707-00708.pdf>,  
(accessed 2019-01-23).
- [3] Gaceta de Madrid. 1930-09-09, núm. 252, p. 1442.  
<https://www.boe.es/datos/pdfs/BOE//1930/252/A01442-01442.pdf>,  
(accessed 2019-01-23).
- [4] 1926年の本の日制定の勅令には、「第1条 毎年10月7日は、  
スペイン文学の王たるミゲル・デ・セルバンテス・サーアベ  
ドーラの誕生日を記念し、スペイン語の本を祝う日とする。」  
とある。  
Gaceta de Madrid. 1926-02-09, núm. 409, pp.707-708.  
<https://www.boe.es/datos/pdfs/BOE//1926/040/A00707-00708.pdf>,  
(accessed 2019-01-23).
- [5] “San Jorge matando al dragón”. Museu Nacional d'Art de  
Catalunya.  
<https://www.museunacional.cat/es/colleccio/san-jorge-matando-al-dragon/anonim-catalunya/064056-000>, (accessed 2019-01-23).
- [6] Soler i Amigo. Sant Jordi: la diada, La tradicio, L'actualidad.  
Barcelona, 2000, p.11.
- [7] Cendan Pazos, Fernando. La Fiesta del Libro en Espana. Madrid.  
1989, p.54.
- [8] Martínez Rus, Ana. La Política del Libro durante la Segunda  
Republica: socializacion de la lectura.Gijon. 2003.  
Martínez Rus, Ana. La politica editorial durante la Segunda  
Republica: las Ferias del Libro. Murga Castro, Idoia, y Lopez  
Sanchez, Jose Maria. Ed., Politica cultural de la Segunda  
Republica. Madrid. 2016. pp.147-170.
- [9] Jane Winters. “Digital History”. Marek Tamm, Peter Burke ed.,  
Debating New Approaches to History. Bloomsbury. 2019. p.281
- [10] Omeka Classic. <https://omeka.org/classic/>, (accessed 2019-01-23).
- [11] Sant Jordi's Day & Book Day Digital Archive.  
<http://historiadigital.sakura.ne.jp/historiografidigital/project/>,  
(accessed 2019-01-23).
- [12] 菊池信彦. スペイン史研究のためのウェブリソースポータル  
の構築とその背景：デジタルヒストリーの普及と確立に向け  
て. 第3回デジタルアーカイブ学会大会予稿集掲載予定.